

## 新年ご挨拶

### 更に充実したOMCに期待

会長 合原 一夫

会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。今世紀最後の年を迎えました。このところ世の中は不景気な話ばかりで落ち込んでおりますが、今年こそは少しでも上向きの景気になってほしいものです。世の中はバツしない話ばかりですが、わがOMCは昨年1年飛躍的に会員数が増え、例会作品も時間一杯の上映時間を要するくらいの出品本数を数え、嬉しい悲鳴でした。新しいメンバーの方にも世話役の一端を引き受けて下さり、新風が吹き込んでまいりました。

OMCの伝統は、毎年公開映写会で良い作品を世に問うことが一つの目標としてきました。ビデオ化した現在におきましても、この伝統だけは継承していきたいと考えております。公開映写会も年6回(大阪アマチュア映像連盟、OMC、OVC、銀の会、全国作家連年2回)となり、作品の質が問われる時代です。今年は他の発表会の時期をにらんで10月上旬か中旬ではどうかと予定しております。各位、これぞ我が自信作というものをフェスティバル目指して手掛けようではありませんか。期待をこめて新年のご挨拶といたします。皆様のご健勝・ご活躍をお祈り申し上げます。

■新年会1月17日(日)18時より、「さと法善寺」、どうぞお忘れなく。

### 1月例会のお知らせ

年も改まり、1900年代最後の年、今年最初の例会は1月23日第4土曜日18時より。阿倍野市民学習センター・特別会議室にて。部屋がいつもと違っていただきますのでお間違えなきよう。どうぞ作品持参のうえ、お集まりください。今年も楽しくはじめましょう。

# 12月例会レポート

今年最後の師走例会、忘年会たけなわの時期でもあって出足はやや悪かったのですが、終わって見れば22名の出席と13本の出品作品を数え、まずまずの盛会にて今年を締めくくりました。今月より正式に高田淳吉さんがご入会となり見事なノンリニア編集作品をご披露になり拍手喝采でした。

今月の司会は関さん、書記・合原さん、デッキ係・渡辺さん、受付兼スイッチ係・安居良枝さんの皆さんで会を進行しました。

■今月の例会出席者：有村、奥、江村、上総、今井、金子、合原、岩井、那須、宮崎、森下、森口、森、安居、安居良枝、松本、中尾、関、増池、勝、渡辺、高田（新入会者）の皆さん（以上22名）

■上映作品（今月の短評は合原会長が担当）

1. クリーン赤目四十八滝 奥 宏さん 6分23秒

初めてノンリニアで編集してみたど作者。しかし通常の編集画面に比べてむしろ画質がすこし落ちたのでは、という意見が多かったようです。ノンリニアはタイトルやテロップ挿入、音処理に威力を発揮すると云われ、今後も手がける人が多くなると思われますが、いろいろ参考になりました。さて作品ですが、赤目四十八滝をゴミ問題の面から取り上げたねらいは大変良いと思いますが、少し中途半端に終わったのが残念です。ナレーションを入れるのでしたら、途中からではなく、最初から行った目的などを語ったほうが良いと思います。再挑戦してみてください。

2. ぶらり信濃路 森口吉正さん 6分0秒

白馬から安曇野あたりの風景を大変美しく撮られています。車で行かれた由ですが、安曇野は車で通り過ぎただけでは良いカットは撮れないといわれ、撮り歩きたいところですが、本作品はそれなりにうまくまとめられており、さすが手慣れた森口さんのウデだと感心しました。絵を描いている人のカットが1カット出たが、あと2～3カット欲しかったと司会者からの声がありました。どう変化を持たせるかもポイントのようです。

3. 神農祭 金子博泰さん 6分50秒

今月は安居さんの「神農さん」と期せずして、神農さんの作品が2本出ました。金子さんの今までの一連の作品から見れば、可成り腕前が上がったと感じさせる作品で、よく撮っておられました。もっともノンナレ作品なので、大阪以外の人には場所や、いわれなど判らないので、簡単にテロップを入れたらどうかと助言がありました。

4. 清水さん 安居良枝さん 6分50秒

安居良枝さんらしいまとめ方で、単にスケッチ風になりがちなテーマをしつかりと、自分の作品にされています。清水寺にまつわる昔話も初めて聞きました。塔の見える風景も欲しかったとは司会者のアドバイス。

5. 環状線 安居利次さん 9分40秒  
 同じ大阪にいながら案外JR環状線のことには知らないもので、この作品を観て勉強させられました。作者は文献などで相当調べられた上でシナリオを書かれたのではないかと思います。環状線のことについて大阪に古くから住んでおられる司会の関さんからも思い出話が披露されました。今年の映像祭出品候補作品といってもよいでしょう。
6. 或る秋祭り 奥 宏さん 6分40秒  
 作者の故郷福岡県豊前市大富神社の祭礼の記録。神事など詳しく記録されていて、相当のコネがあって撮影できたのではないかと推察されるカットも多くありました。こういう記録ものはナレーションが欲しいところです。  
 そのため時間が長くなっても観る人にとっては長さをそう感じないものです。ご一考の上再構成を試みられたら如何でしょうか。
7. 熊野古道 渡辺雄史さん 5分00秒  
 6月第1土・日に予定しているOMC撮影会のロケハンで撮られた紹介作品。熊野古道のほんの一部を紹介しただけですが、雰囲気伝えるには十分な映像でした（撮影会については別項で紹介）。
8. 名作劇場 末岡健司さん 4分00秒  
 映像による紙芝居、といった作品で、マンガの上手な絵と川柳、格言などをかみ合わせて面白い作品になっています。実写とカットバックしても面白いのではないかと司会からの助言がありました。風刺も効いていてよかったと思います。
9. 神戸より愛をこめて 末岡健司さん 10分00秒  
 逆回転の神戸まつり、港の風景、給食のボランティア状況、夜の港など、トップシーンのトルコ行進曲などのBGMとともに盛りだくさん出てきます。作者は、神戸は美しい、いい街だ、と伝えたかったのでしょう。しかし残念ながら意図がうまく伝わってこないように思いました。難しいテーマですが、今一度挑戦されては如何でしょうか。
10. 究極のマニア 有村 博さん 18分22秒  
 元OMC会員で現在は三重県多気郡大台町にお住まいの上野進さんは、ずっと以前から8ミリカメラ、スチールカメラ、映写機など何百台も集めておられてさながらカメラ博物館のよう。そこへ作者が訪れてインタビュー形式で撮影してこられました。相手と会話しながらの撮影はさすが有村さんならではの芸当です。世の中にはいろいろな人が居るものです。スチールカメラのシーンが長いのでカットバック的に扱い、話題性の強いものだけを重点的に紹介されてもう少し短くしてもよいのではと思いました。

11. 観心寺 森 保信さん 6分40秒  
河内長野にある観心寺、広い境内です。トップシーンは楠公の銅像ですが、観心寺を知らない者にとって楠公とどんな関わり合いがあるのかと興味をそそられます。この作品のまとめ方でしたらナレーションが欲しいところです。画面は森さんらしく大変きれいに仕上がっています。
12. スキューバダイビング 中尾雅弘さん 2分10秒  
7~8年前に、業務用VHSカメラで撮影された作品との由。最初スキューバダイビングの服装をした男が海岸から海へ入っていきます。次に海中の様子、そして画面が一転してお風呂の入り口で「何してんの」と子供らが笑うシーンがあって、風呂の湯に頭をつけたスキューバダイビング姿の男で種明かし。落語のオチみたいで楽しい作品でした。作品の発想がとても面白かったと思います。
13. 魔女のほうきで飛びたいね 高田淳吉さん 3分30秒  
ノンリニア編集ならではの編集で、見事ほうきに乗った坊やが飛ぶという特殊編集技術を活かした作品で楽しませて頂きました。子供さんや奥さんも動員して一家でビデオを楽しんでいらっしやるようで、これからも楽しい作品が期待できる新入会の高田さんの作品でした。

以上で上映を終わり、一杯組と喫茶組とに別れて師走の街へ今年最後の二次会へと席を移し、ビデオ談義に花を咲かせました。

## 講評考

合 原 一 夫

人から作品についてあれこれ意見を言われたり講評されたりすることについて「自分はこれで満足して楽しんでいるから、あれこれいわれたくない。」と怒る人もいるらしい。確かに自分で精一杯考えて作ったのだから、人からあれこれ指図されたくない、という思いも判らないのではないが、それなら外部へ発表したりのするのは悪くいえばひとりよがりの作品を第3者に観せることは、第3者に対して失礼というもの。

少しでも第3者が観てよかったとだけ思っただけの作品を目指すなら、人の意見や助言は謙虚に聞くべきだと思う。聞いた上でなお、自分の方が正しいという信念があれば、それはそれで立派だと思う。自分では気がつかない欠点やミスは第3者からの指摘でよく気がつくことがある。OMCの会員諸氏には人の意見や助言に怒る人はいないと思うので、今後ともお互いに少しでもよい作品を目指して、遠慮のない意見や講評を述べていきたいと考えている。

乞うご期待！